

議 事 録

公開・一部公開・非公開			非公開 部 分 理 由		
			文書管理責任者	保存期間	30 () ・ 10 ・ 5 ・ 3 ・ 1 ・ 随
				作成日	令和4年6月29日(水)
部長	課長	課長補佐	係長	係	記録者所属
					職・氏名 主任 小川原 いずみ

会議等の名称	第7回東御市公共交通活性化協議会	開催日時	令和4年6月29日(水) 午後 1時 30分～ 午後 3時 30分
		場 所	東御市中央公民館 3階講堂
主催者(事務局)	東御市公共交通活性化協議会事務局（商工観光課）	司会者	
出席者	高澤 陽、石坂 公明(代理)(オンライン)、塚原 仁、中島 俊一、井出 進一、芦田 高英、 阿部 貴代枝、田中 節夫、真田 賢一郎、唐澤 光章、寺嶋 あい子、小川原 章子、 倉嶋 智彦、関野 エリ、平林 千秋、清水 初太郎、猿谷 巖、加藤 英人、宮原 剛士、 勝亦 達夫、白鳥 明(代理)(オンライン)、篠原 敏夫、小林 義忠、松葉 和彦、両川 博之、 瀬下 澄仁 事務局：深井 芳信、山浦 晃隆、小川原 いずみ、小林 裕次、渡邊 亮太、清水 悟 安川 祐介		
欠席者	佐藤 栄治、小林 靖典、相場 聡司、坂口 永一、峯村 文博、松井 道夫、中島 健彦、 佐藤 勝		

議 題	(議題)	(配布資料)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東御市公共交通計画（素案）について ・ 東御市公共交通システムの見直しに係る費用試算について ・ 今後のスケジュールについて 	事前配布冊子 資料No. 1 別紙資料
決定事項 <small>(要点を箇条書き)</small>		
次回への検討事項		
次回開催	(日時) 令和 年 月 日 午後 時 分から (場所)	

討議内容及び 経過	(発言者名)	(発言内容)
経過		
1 開 会	清水副会長	
2 あいさつ	瀬下会長	
3 協議事項		
(1) 東御市公共交通計画（素案）について	事務局	事前配布冊子について説明
		■質疑応答・意見
高澤委員		各施策の実施スケジュールに関する記載がないため、いつ頃から何を行うのかが示されていると良い。また、資料の最後にPDCAに関する記載があるが、時期や基準など具体的な内容を記載してもらいたい。
事務局		実施スケジュールに関して、施策の中には、すでに始めているものやこれから行っていきたいものが含まれている。ある程度のスパンで各施策のスケジュールを示すようにする。また、PDCAサイクルについては、どのような観点、タイミングで行うのかを詳細に記述する。
平林委員		計画としてまとってきたので、内容の補強を提案したい。69ページではアンケート調査の総括が書かれているが、新しい公共交通を作っていくという課題がある中で、この認識ではいけないのではないかと。小中高生や高齢者など移動手段を持たない人のためにどのようなサービスを提供するのかが検討し、それにつながるような総括が必要なのではないかと。また、7章や8章では観光や地域活性化に関連する記述がみられるため、6章以前においても、まとまった記述が何か必要なのではないかと。
事務局		アンケート総括の部分では、その後の流れに繋がるような課題についての記述とする。
平林委員		ぜひ、移動手段を持たない層のことを考えて工夫をしてもらいたい。
(2) 東御市公共交通システムの見直しに係る費用試算について	事務局	資料No.1について説明
		■質疑応答・意見
平林委員		運行時間帯の違いによって、市民の需要やそれに伴い収支も変わってくるのではないかと。今回の試算の前提条件を教えてください。
事務局		運賃収入見込みについては、以前シミュレーションを行っていただいたカスタモビリティ社に依頼をし、東御市の類似事例をもとに設定した。具体的には、元々デマンド交通を運行しており、後からAIシステムを導入した自治体であり、利用が10%ほど増加したため、今回の試算においても現状の10%増しとした。
平林委員		実施段階に至るにあたり、市場リサーチを行い、利用する方の要望にあつ

	た運行を検討してもらいたい。
事務局	定時定路線バスが通っていない場所は、朝の時間帯の公共交通がなく利便性が悪いため、試算②では、デマンド交通の運行時間を1時間早めた形としている。計画素案において市の負担額の目標値を7千万円としており、試算②ではこれを超えてしまっているが、利便性が上がるのであれば、これを認めていただけるよう努力していきたいと考えている。また、合わせて検証も行っていく。
勝亦委員	現状では、乗車率が低いと収支が悪化している状況であると思うが、どのような人をターゲットとして想定しているのか。課題として利用者を増加させる必要があるが、AI等を活用すると高齢者には使いにくく、利用者の大幅な増加が見込めないのではないか。今後、周知や認知度を上げる対策などは考えているか。
事務局	利用者数は平成31年度ベースで試算をしている。具体的なターゲットまではまだ考えていないが、コロナ禍前の1.1倍の利用を見込んだものである。また、高齢者などスマホを使いこなせない人に対するフォローとして、導入までに2年程度を要するため、準備期間の間に多くの人に利用していただけのような仕組みを構築したい。
阿部委員	柵津地域では、教育委員会でスクールバスを運行しているが、全ての小中学校で子ども専用のスクールバスを運行し、定時定路線バスと切り離すことはできないか。そのようにすれば、朝夕にも定時定路線バスを増やせるのではないか。
瀬下会長	公共交通として運行する定時定路線バスとスクールバスのどちらも、運行経費の負担は市となるため、現実的には難しいと思われる。現状は、効率化のために定時定路線バスに通学する子どもも乗車している状況である。
関野委員	現在、一番大変なのは和地区の南側に居住している家庭で、市から補助を貰っている家庭もあるが、実際は送迎により保護者の負担になっていたり、送迎ができない家庭は子どもが長距離を歩いて通学していたりする。そのような状況を把握して、手を差し伸べることはできないか。
事務局	デマンド交通の活用については、計画等で検討していくことになるかと思う。和地区には、2kmほどの距離を通学している子どもが100名程度かと思われるため、全員をバスで運ぶというよりは、現状は通学援助費を支給し家庭の協力をいただいている状況である。
関野委員	援助費を支給していても、家庭が負担に思っていれば何も解決していないということを念頭においてもらいたい。小中学校は義務教育であり、柵津地域ではスクールバスが走っているなど、不公平感があるのは問題だと思う。
事務局	柵津地域のスクールバスについては、事業者の撤退に伴う一時的な対応で

(3) 信州大学共同
研究事業について

	あることはご理解いただきたい。通学援助費については、バスが通っていない地域の家庭では、保護者の送迎に頼ることになってしまっているため、支給をしている。
瀬下会長	スクールバスの問題については、公共交通とは別の内容となってしまうため、教育委員会のほうでも検討を続けていただきたい。
事務局	別紙資料について説明
勝亦委員	別紙資料について説明
	■質疑応答・意見
平林委員	今回の計画策定において、住民懇談会の実施がなくなってしまったため、それを補完する役割も担うことができると良いのではないかと思います。また、4つのワーキンググループが示されているが、地域づくり協議会の皆さんとも連携して、地域の皆さんの声を拾うことを考えていただきたい。
瀬下会長	要望として承った。
阿部委員	ぜひ、5地区を回って話し合いをしてもらいたいと思う。できれば、高齢者に対して話を聞く機会も設けてもらえないか。
瀬下会長	要望として承った。勝亦委員から何かあるか。
勝亦委員	高齢者の意見については、福祉交通の中で機会を設けたいと考えている。
真田委員	ワークショップなどでは、往々にして住民意見のガス抜き場となってしまう。ワーキンググループでは、出された意見を信州大学のほうでまとめていただけるということであるかと思うが、意見を吸い上げて実現につなげていただきたい。無視して良い意見や実現できないような意見などたくさん意見が出てくると思うが、信州大学でリードしていただきたい。
勝亦委員	意見を聞くのは非常に難しいとは感じている。本当に困っている人の意見を聞きたいが、なかなかそのような人に出会えていないため、そのような方の意見を拾う方法をご相談したい。
関野委員	子育て・通学の交通ワーキンググループの参加者に小中高校生の保護者等とあるが、ぜひ、授業の一環として中高生本人にも、どのような公共交通であれば使いたいかなどを考えてもらいたい。
勝亦委員	次の世代が考えるべきことは、自分たちがどのような交通が欲しいのかという発想をすることだと思う。今回、AIデマンドの実証実験などを行う機会があれば、うってつけのDXの教育機会だと思う。しかし、いきなり全域で行うことは難しく、中心市街地からになるかと思われるので、学校を含む範囲とするなどを今後検討していきたい。

(1) 次回の活性化協議会について	事務局	本日、計画素案の内容及びワーキンググループについて、いただいた意見を踏まえて対応する。ある程度計画素案がまとまった段階で、場合によっては、書面による報告を行うことを考えており、次回協議会の日程等と併せて後日通知する。
(2) その他		(特になし)
5 閉会	清水副会長	